

貯蔵弾性率等の説明

Kouichi KAJISAKI
UNIUS PAT. ATTORNEYS OFFICE

2013.7.18

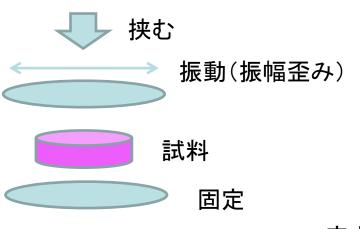
じ なぜだろう

- •物性なのに、なぜ複素数が出てくるの?
- 虚数部分をどうやって計るの?
- 力学にどうして角度(tanδ)が出てくるの?

解説を読んでも、イマイチ分からない。



粘弾性の測定方法(イメージ)

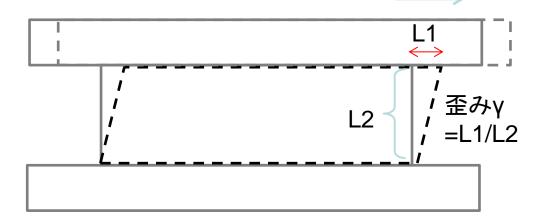


引張(たて)弾性率(ヤング率)

応力σ=引張弾性率E× 歪みγ <u>応力σ</u>=引張弾性率E 歪みγ

応力σ(力/面積)

弾性体の場合

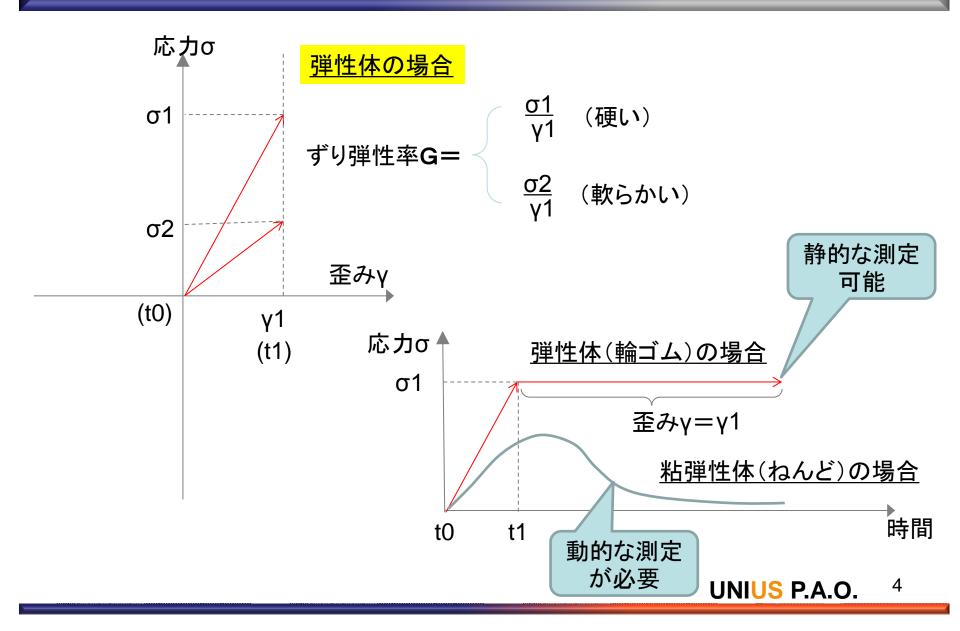


ずり(よこ、剪断)弾性率

応力σ=ずり弾性率**G**× 歪みγ (MPa) (MPa) (-)

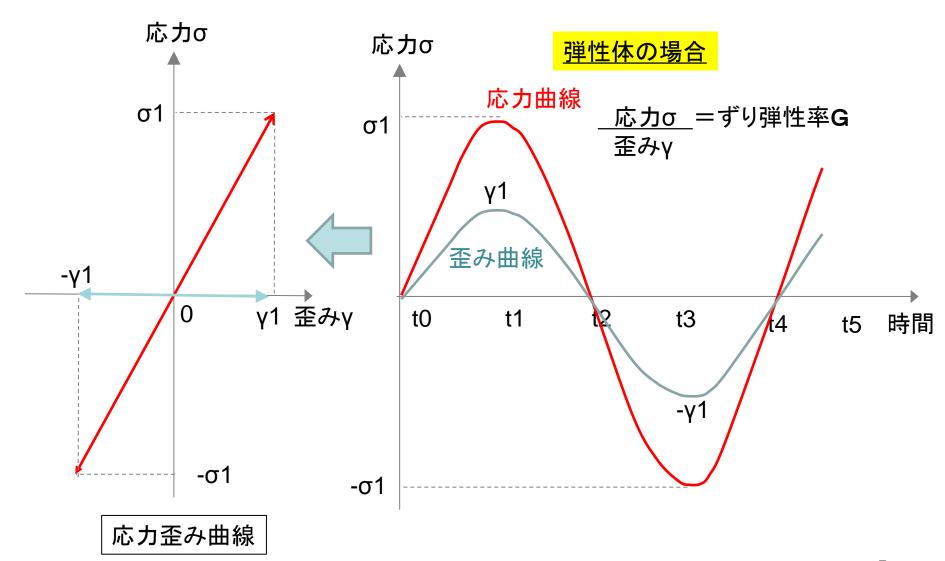
<u>応力σ</u>=ずり弾性率**G** 歪みγ

応力・歪みと時間の関係

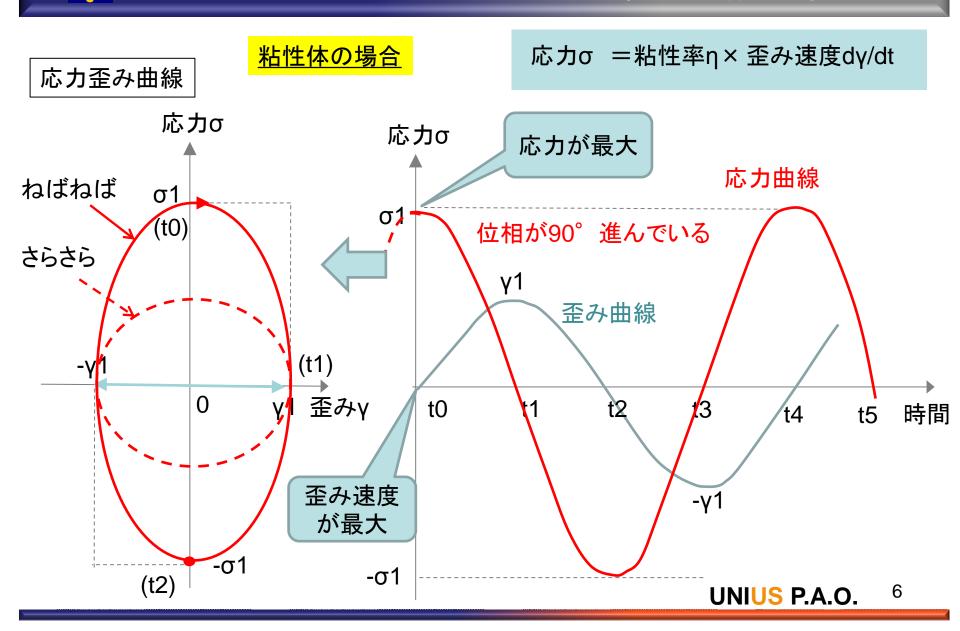




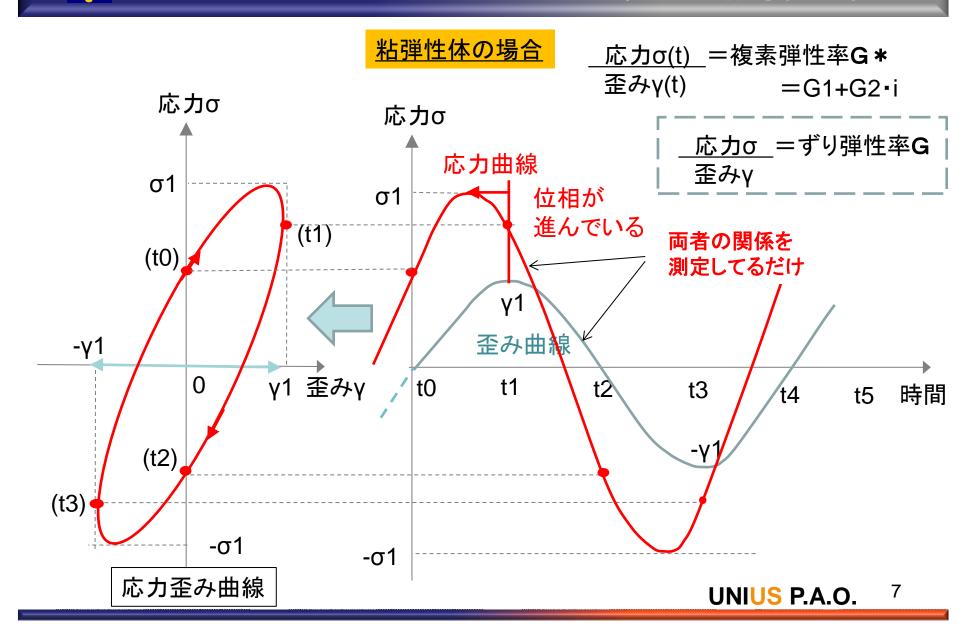
歪みをサイン波で与えた場合(弾性体)



歪みをサイン波で与えた場合(粘性体)



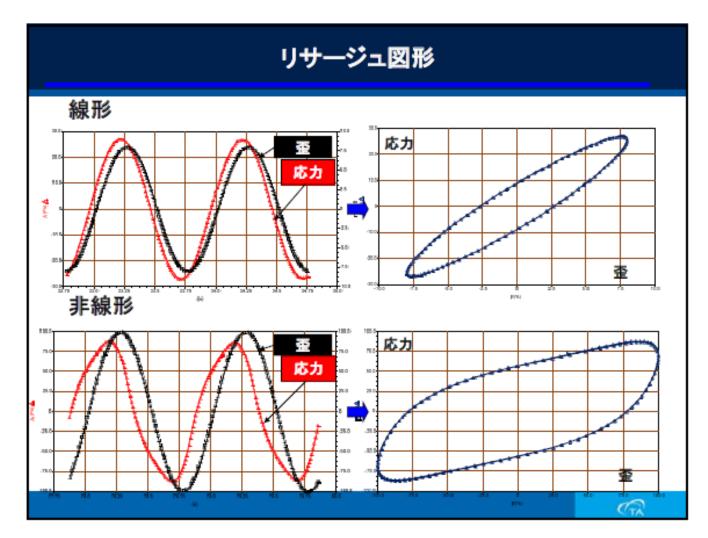
歪みをサイン波で与えた場合(粘弾性体)



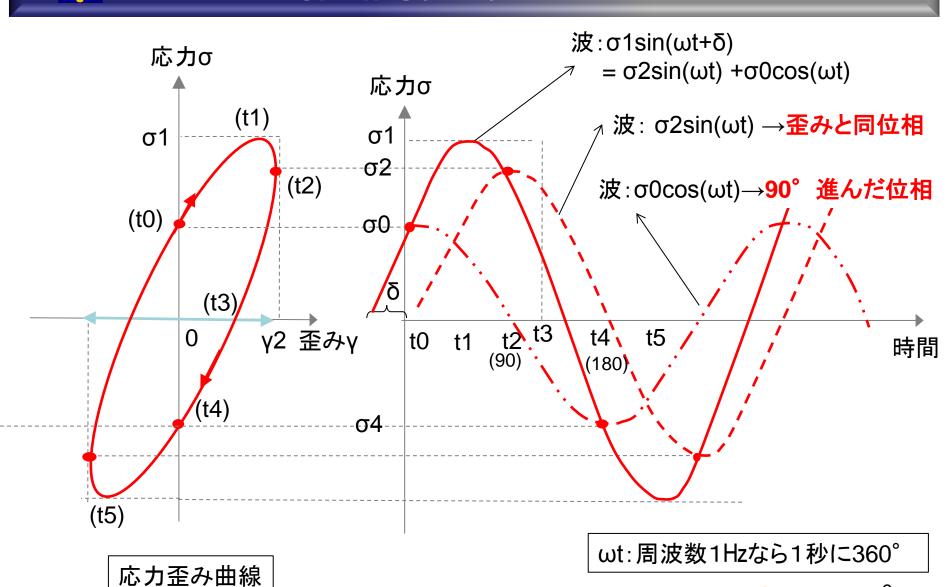


実際の測定結果(粘弾性体)

実際の測定結果



波の分解(粘弾性体)

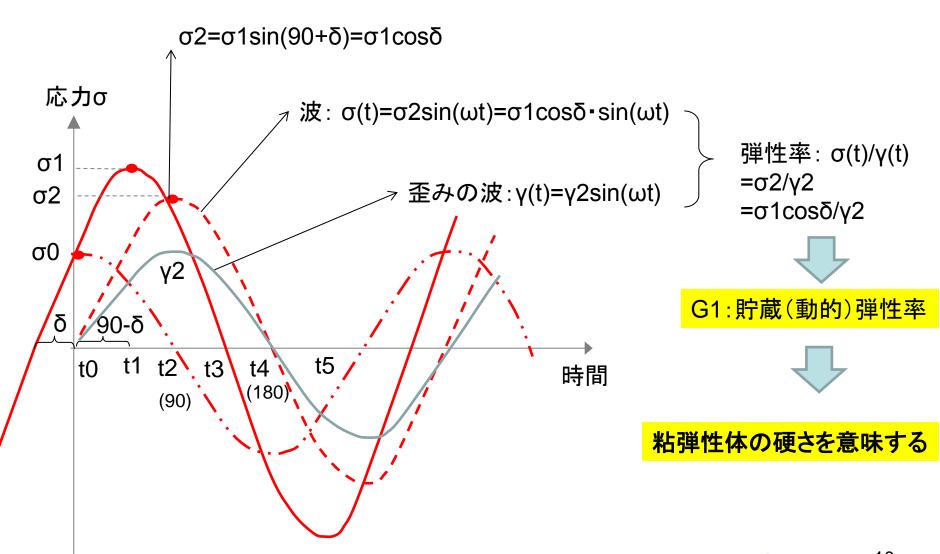


UNIUS P.A.O.

9

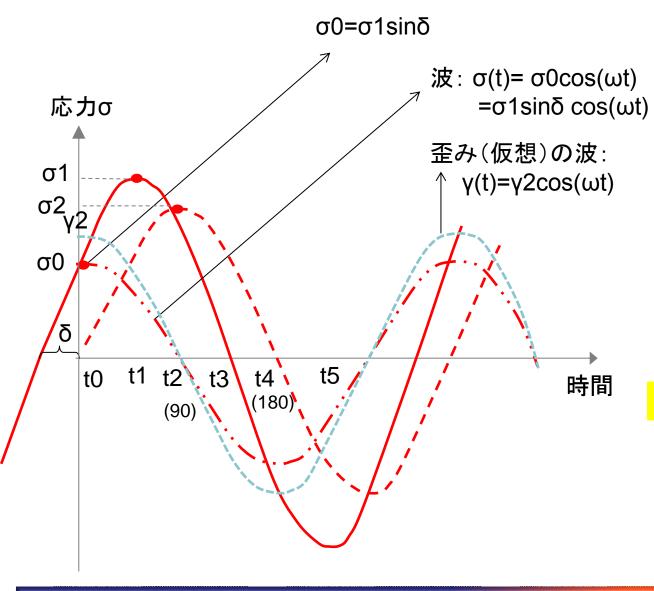


貯蔵弾性率の解析(弾性部分)





損失弾性率の解析(粘性部分)



弾性率: σ(t)/γ(t)

 $=\sigma 0/\gamma 2$

 $=\sigma 1 \sin \delta / \gamma 2$

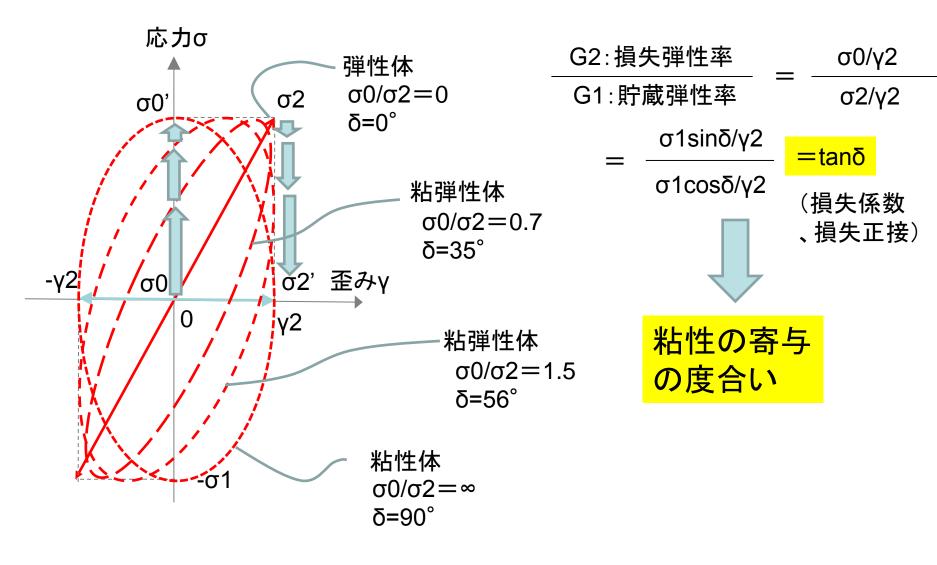


G2:損失弾性率

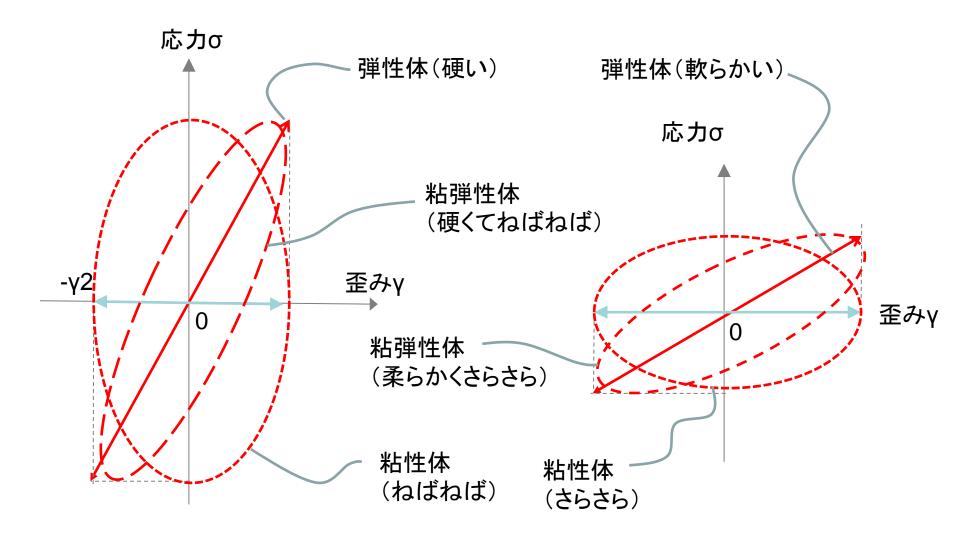


粘弾性体の粘さを意味する

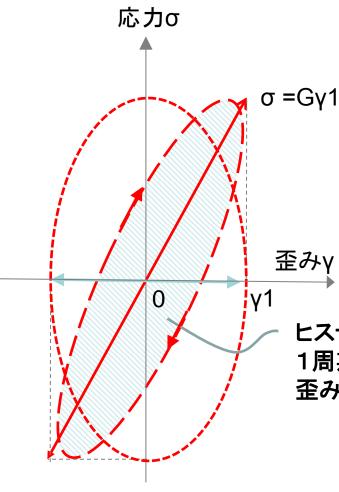
粘性/弾性比(tanδ)



動的応力一歪み曲線と物性



じ ヒステリシスロス



歪みエネルギーの式

$$U=\int \, \sigma \, \mathrm{d}\gamma$$

弾性体の場合

応力σ=ずり弾性率G•歪みγ

$$U = \int G\gamma d\gamma = [G\gamma^{12/2-0}](\gamma=0\sim\gamma^1)$$



ヒステリシスロス: 1周期で失われる 歪みエネルギー

粘弹性体

・変形した状態では 直線下の直角三角形 ・戻すとエネルギー損失 はゼロ

(二三角形の面積が同じ)

数学的な考察

<u>応力σ(t)</u>=複素弾性率**G *** 歪みγ(t)

測定される応力: $\sigma(t) = \sigma 1 \sin(\omega t + \delta) = \sigma 2 \sin(\omega t) + \sigma 0 \cos(\omega t)$

入力される歪みの波: γ(t)=γ2sin(ωt)

弾性率: σ(t)/γ(t)=σ2/γ2+σ0/γ2•cos(ωt)/sin(ωt)

これを定数にするために



入力される歪みの波: γ(t)=γ2(cos(ωt)+i•sin(ωt))=γ2 e iωt

出力される応力の波: σ(t)= σ1* (cos(ωt)+i•sin(ωt))=σ1* e iωt

<u>応力σ(t)</u> =複素弾性率**G*** = σ 1* /γ2=G1+i•G2 歪 σ 3*:複素応力

> 貯蔵弾性率= $\sigma 2/\gamma 2 = \sigma 1\cos\delta/\gamma 2$ = $G\omega^2 \tau^2/(1+\omega^2 \tau^2)$

(τ:緩和時間)

マックスウェル模型

 $G \geqslant \gamma = \gamma_1 + \gamma_2$ $\gamma = \gamma_1 + \gamma_2$ $\gamma = G\gamma_1 + \gamma_2$ $\sigma = G\gamma_1 = \eta \frac{d\gamma_2}{dt}$ $\gamma = \frac{d\gamma_2}{dt}$ $\frac{d\gamma_2}{dt} = \frac{1}{G} \frac{d\sigma}{\sigma t} + \frac{\sigma}{\sigma}$

損失弾性率 = σ 0/γ2 = σ 1sin δ /γ2 = $G\omega \tau / (1+\omega^2 \tau^2)$

UNIUS P.A.O. 15

まとめ



測定:応力曲線と歪み曲線の両者の関係を測定してるだけ

振動(振幅歪み)



試料

固定

G1: 貯蔵弾性率

G2:損失弾性率

歪み曲線と同位相の成分から 求めた粘弾性体の硬さ

90°位相の進んだ成分から 求めた粘弾性体の粘さ

複素弾性率G*=G1+G2•i

 $G2/G1 = tan\delta$

粘性の寄与の度合い

明細書の記載例

因みに、tanδがピークとなる温度がTgに相当する

測定装置は、動的粘弾性測定装置(RSAn、Reometric Scientific 社製)を用い て測定される。測定条件は、シートを縦10mm×横5mmに切断し、引張モードで、 一定の**周波数**(10Hz)で、温度を10℃/分で昇温させ、30~280℃での測定を 行い、その80~250℃での貯蔵弾性率を決定した。

・・・歪み幅も記載すべき



以上で説明会を終わります。